

< 結果の概要 >

1 出生

(1) 出生数は10,156人で、前年より376人増加し、2年ぶりに1万人台を回復した。

出生率(人口千対)は8.5で前年の8.1を0.4ポイント上回った。

なお、出生数が前年を上回ったのは、平成12年以来6年ぶりである。

(2) 出生数を母の年齢(5歳階級)別にみると、20歳代前半で38人減少しているが、20歳代後半で15人、30歳代前半で257人、30歳代後半で149人の増加となっている。

母の年齢階級別出生数

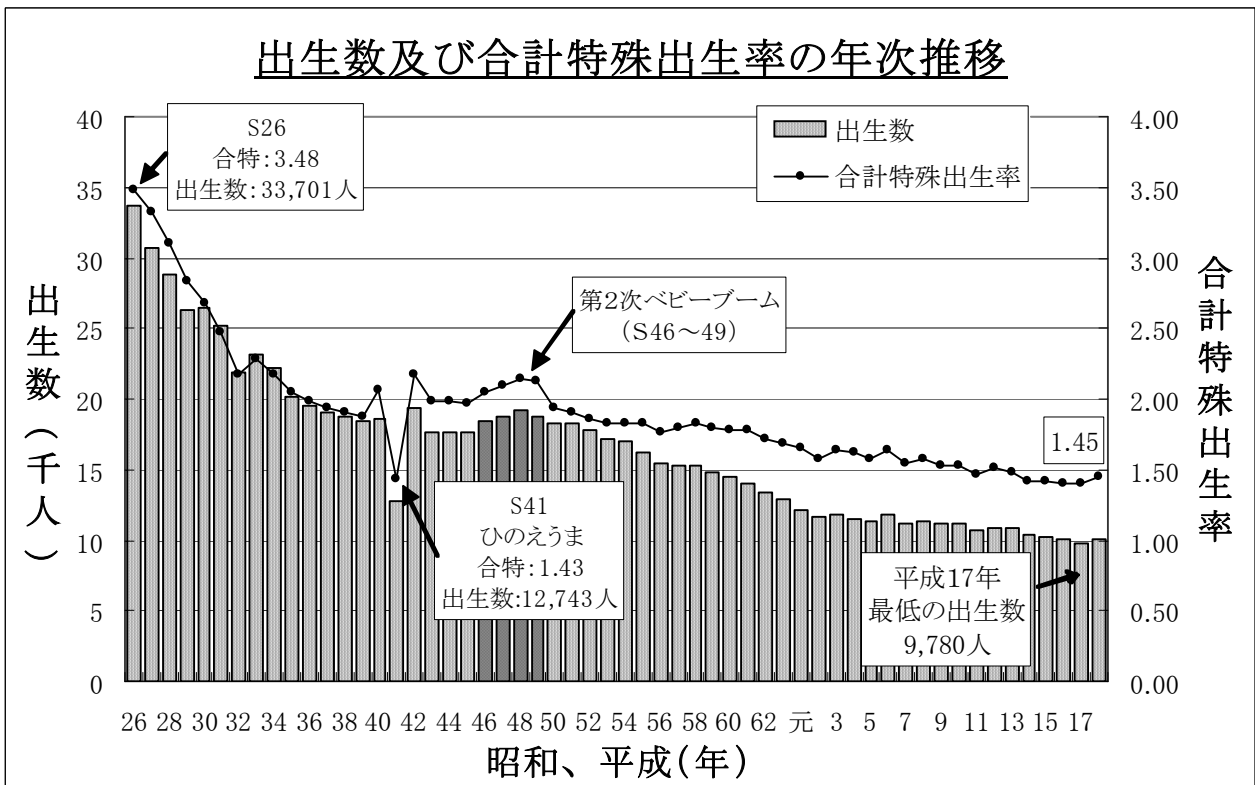
年齢階級(歳)	出生数(人)	
	17年	18年
～14	0	0
15～19	169	161
20～24	1,411	1,373
25～29	3,337	3,352
30～34	3,404	3,661
35～39	1,282	1,431
40～44	173	172
45～49	4	6
計	9,780	10,156

2 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、1.45で前年の1.40を0.05ポイント上回った。

これは平成12年以来6年ぶりの上昇である。

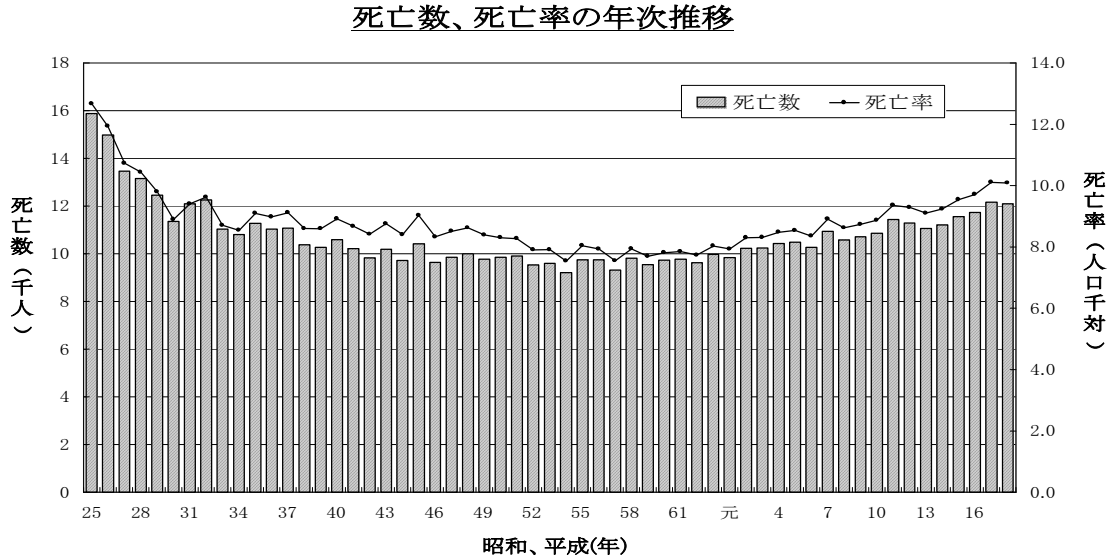
なお、全国の合計特殊出生率は前年より0.06ポイント上回り、1.32であった。



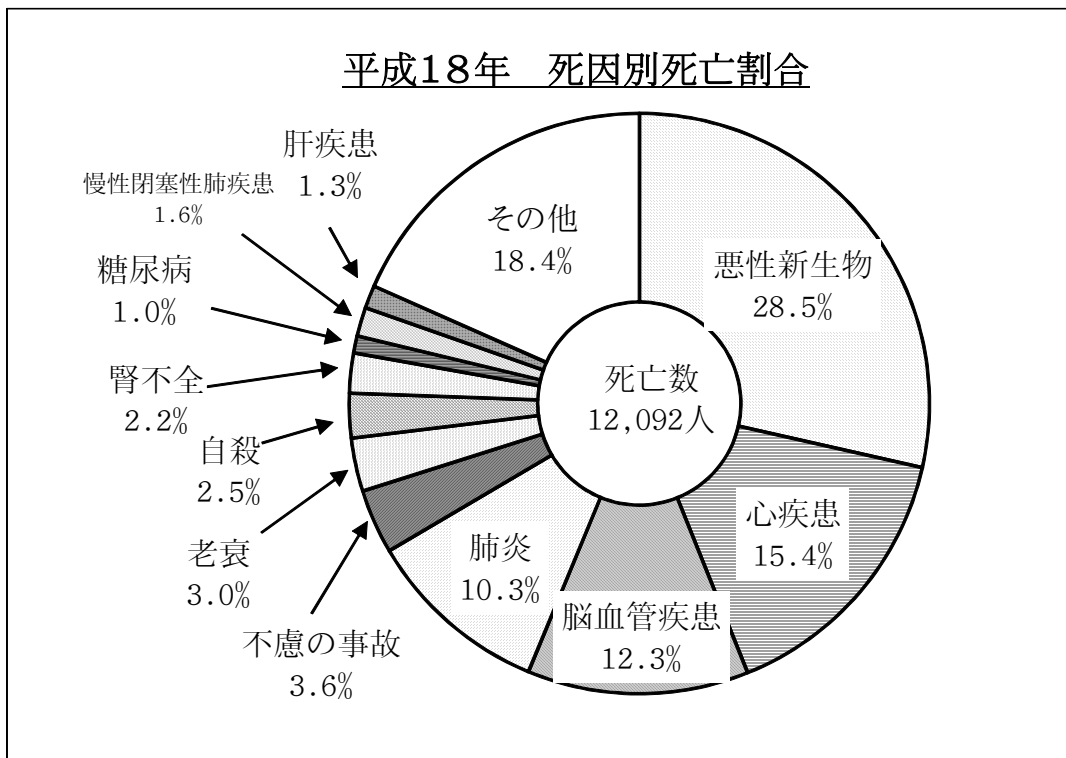
### 3 死 亡

(1) 死亡数は、12,092人で前年より68人減少した。

死亡率（人口千人対）は、10.1で前年と同値であるが、その年次推移を見ると、昭和50年代後半以降、上昇傾向にある。



(2) 死因順位についてみると、第1位は悪性新生物（28.5%）、第2位は心疾患（15.4%）、第3位は脳血管疾患（12.3%）で、この3大死因が、死亡数の約6割（56.2%）を占めている。



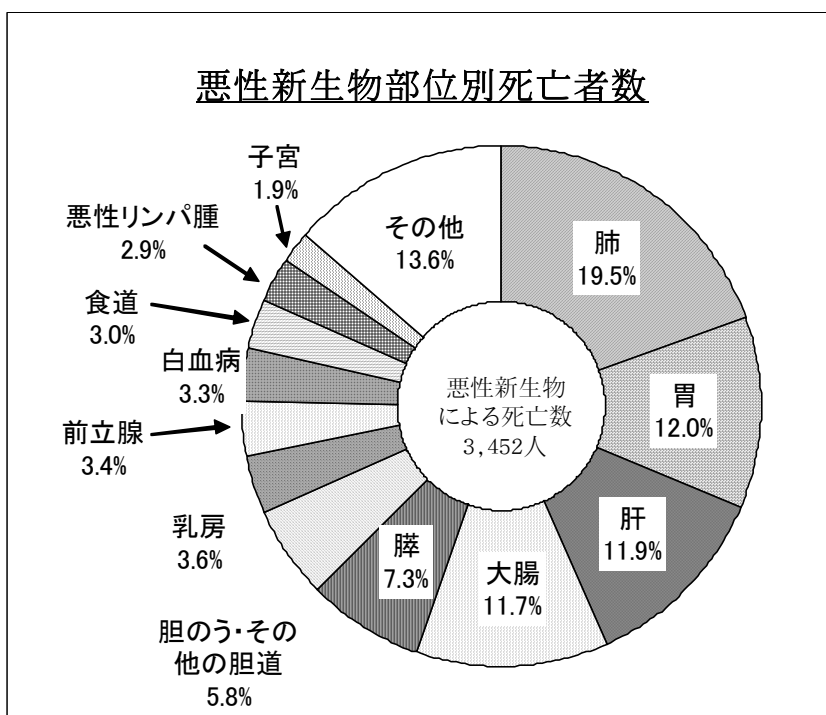
また、死因別死亡数を前年と比較すると、減少したのは、心疾患（136人）、糖尿病（66人）脳血管疾患（32人）などであり、増加したのは、悪性新生物（115人）、老衰（45人）、腎不全（27人）などである。

### 主な死因別死亡数・死亡率

死 因	平成 18 年				平成 17 年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因		12,092	1008.5	100.0		12,160	971.3	△ 68	37.2
悪性新生物	1	3,452	287.9	28.5	1	3,337	277.5	115	10.4
心 疾 患	2	1,858	155.0	15.4	2	1,994	165.8	△ 136	△ 10.8
脳血管疾患	3	1,491	124.4	12.3	3	1,523	126.6	△ 32	△ 2.2
肺 炎	4	1,244	103.8	10.3	4	1,263	105.0	△ 19	△ 1.2
不慮の事故	5	434	36.2	3.6	5	461	38.3	△ 27	△ 2.1
老 衰	6	360	30.0	3.0	6	315	26.2	45	3.8
自 殺	7	299	24.9	2.5	7	292	24.3	7	0.6
腎 不 全	8	269	22.4	2.2	8	242	20.1	27	2.3
糖 尿 病	11	116	9.7	1.0	9	182	15.1	△ 66	△ 5.4
慢性閉塞性肺疾患	9	194	16.2	1.6	10	176	14.6	18	1.6
肝 疾 患	10	155	12.9	1.3	11	164	13.6	△ 9	△ 0.7

注)死亡率は人口10万対。

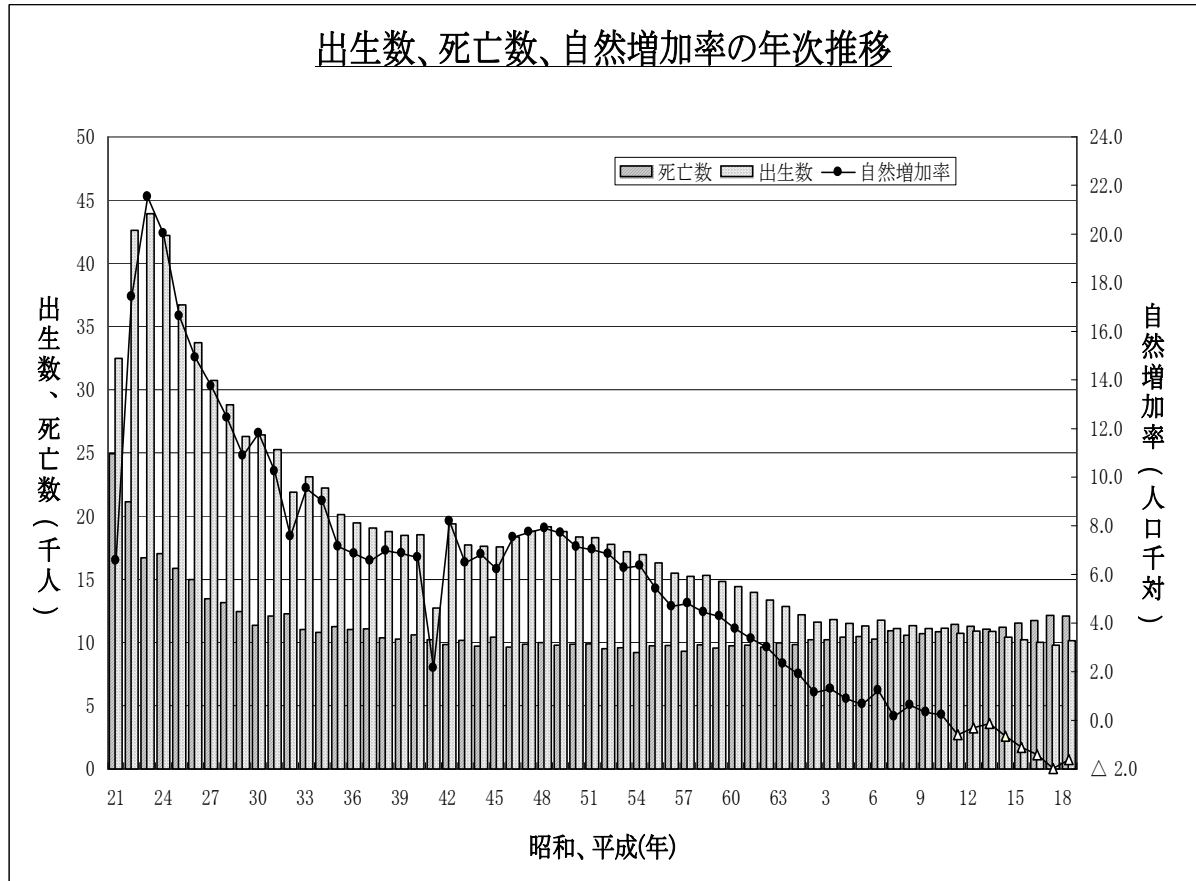
なお、悪性新生物の部位別の死亡順位を見ると、肺がん（19.5%）を筆頭に、胃がん（12.0%）、肝がん（11.9%）、大腸がん（11.7%）と続き、この4つで悪性新生物の55.1%を占める。



#### 4 自然増加

自然増加数（出生数－死亡数）はマイナス1,936人で平成11年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっている。

自然増加率はマイナス1.6と前年のマイナス2.0より減少幅が縮小した。



## 5 乳児死亡

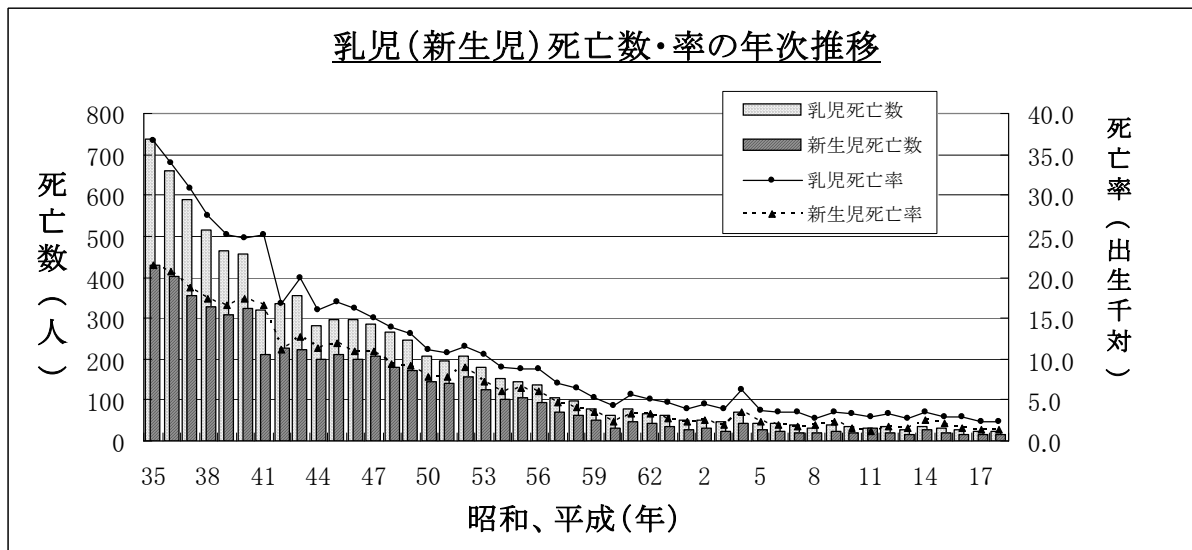
生後1年未満の死亡である乳児死亡数は、24人で前年より1人増加した。

乳児死亡率（出生千対）は、2.4で前年と同率となった。その年次推移をみると、昭和60年までは急激に低下し、その後は、上昇と下降を繰り返しながら、平成5年以降ほぼ横ばいに推移している。

## 6 新生児死亡

生後4週未満の死亡である新生児死亡数は、14人で前年と同数となった。

新生児死亡率（出生千対）は、1.4で、前年と同率となった。その年次推移をみると、乳児死亡と同様の傾向で推移している。

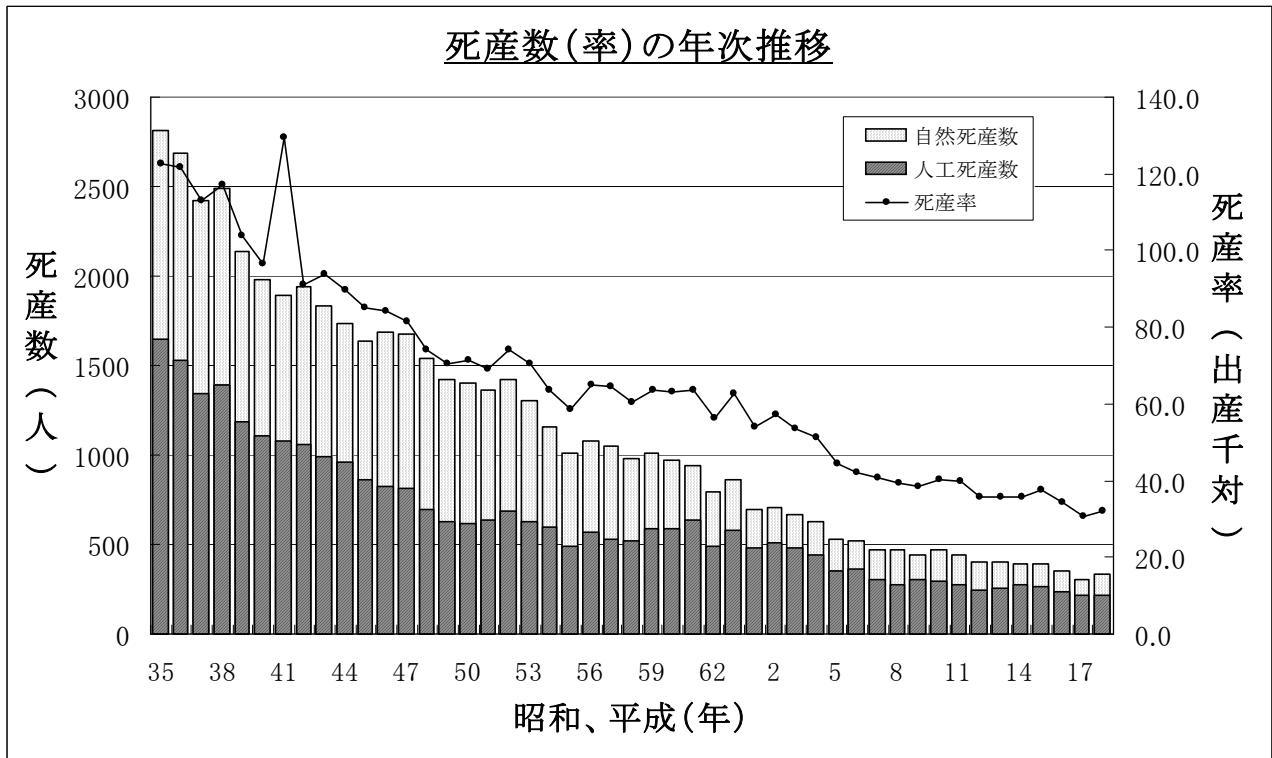


## 7 死産

死産数は、337胎で前年より29胎増加した。

その内訳は、自然死産124胎、人工死産が213胎となっている。

死産率（出産千対）は、32.1で前年の30.5を上回った。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。

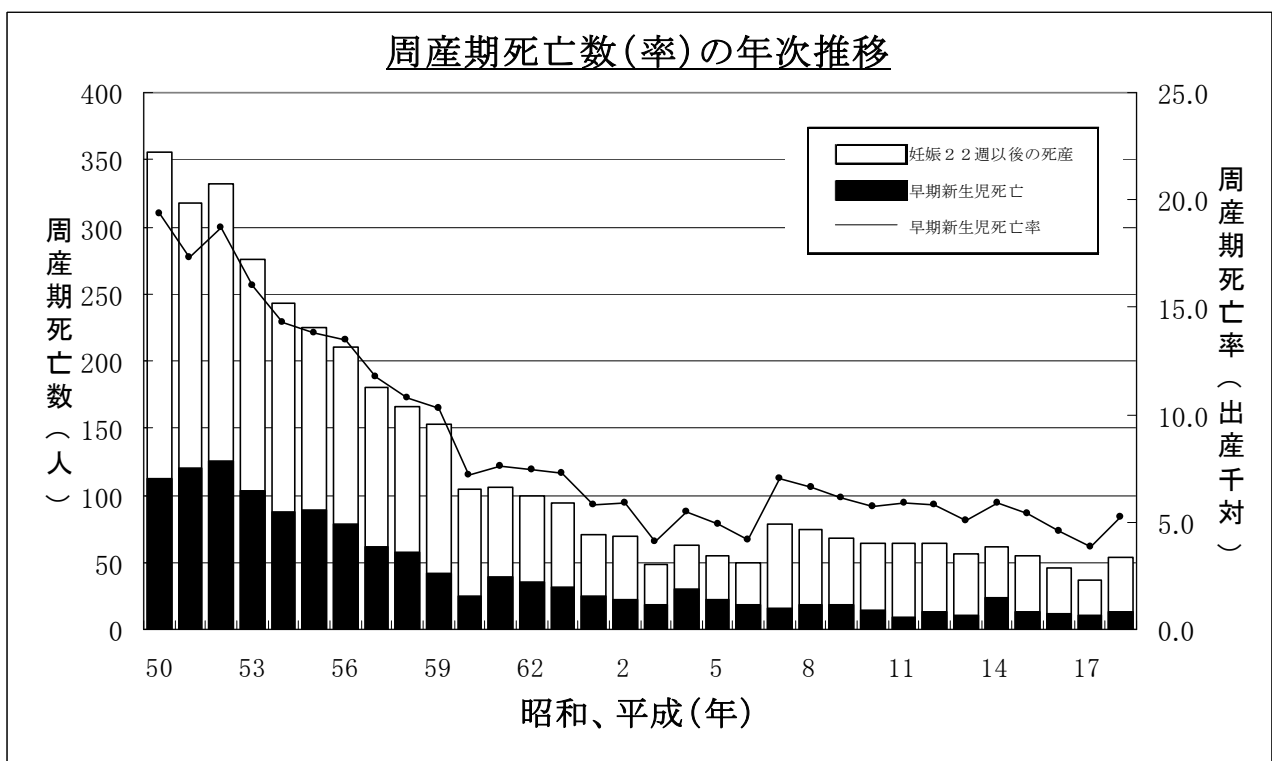


## 8 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産に、生後1週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は、53（胎・人）で前年より16（胎・人）増加した。

その内訳は、妊娠満22週以後の死産が40胎、生後1週未満の早期新生児死亡が13人となっている。

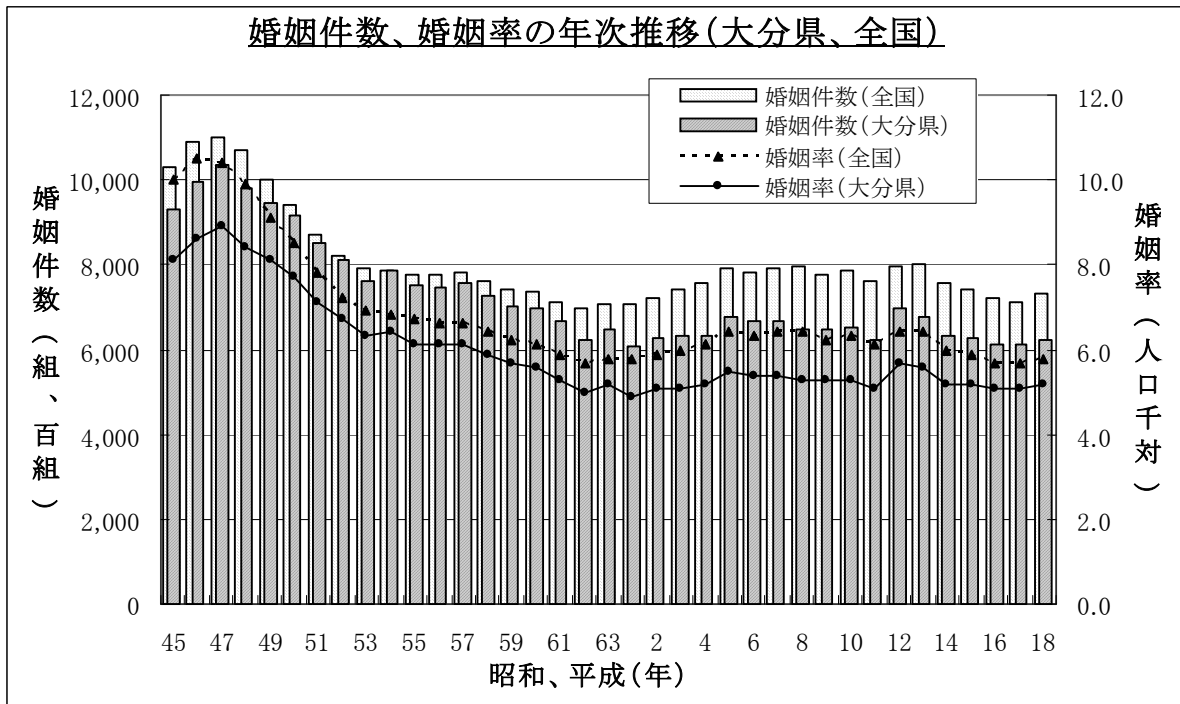
周産期死亡率（出産千対）は、5.2で前年の3.8を1.4上回ったが、年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。



## 9 婚 姻

婚姻件数は、6,201組で、前年より100組増加した。

婚姻率（人口千対）は、5.2で前年と同率だった。その年次推移をみると、昭和48年以降低下を続けた後、平成に入ってほぼ横ばいに推移している。



なお、平均初婚年齢は、夫29.3歳、妻27.7歳であった。

夫については、平成に入ってほぼ横ばいであったが、平成13年以降上昇傾向にある。妻については、ゆるやかであるが、ほぼ毎年上昇が続いている。

	夫		妻	
	大分県	全 国	大分県	全 国
平成3	28.2	28.4	26.0	25.9
4	28.2	28.4	26.0	26.0
5	28.2	28.4	26.1	26.1
6	28.2	28.5	26.1	26.2
7	28.2	28.5	26.2	26.3
8	28.2	28.5	26.3	26.4
9	28.1	28.5	26.3	26.6
10	28.1	28.6	26.5	26.7
11	28.0	28.7	26.6	26.8
12	28.1	28.8	26.7	27.0
13	28.4	29.0	26.9	27.2
14	28.4	29.1	27.1	27.4
15	28.8	29.4	27.4	27.6
16	29.0	29.6	27.5	27.8
17	29.1	29.8	27.8	28.0
18	29.3	30.0	27.7	28.2



## 10 離婚

離婚件数は、2,478組で前年より96組増加した。

離婚率（人口千対）は、2.07で前年の1.98を上回った。

